

348MOTOAZABU

所有者：ニュータウンサービス株式会社
設計者：建築・外構：有限会社kwhgアーキテクト
植栽：SEIN & UI PRODUCT
施工者：建築・外構：北野建設株式会社
植栽：SEIN & UI PRODUCT
所在地：元麻布三丁目4番8号
施設用途：共同住宅、店舗
敷地面積：786.15㎡
緑化面積：53.25㎡
接道部緑化延長：5.08m
緑化面積率：7%
接道緑化率：34%



©小川重雄



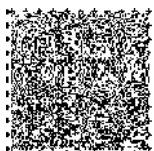
©小川重雄



選定に当たっての評価コメント

店舗や音楽教室、ギャラリー、工房などがあるユニークな空間構成の地上5階、地下1階の共同住宅で、木本類と草本類を組み合わせた接道部から見える地上部の段々状のテラスや、3階、4階のテラス、屋上庭園に建築主やその仲間たちの緑に対する思いが溢れている。隣地の中国大使館の豊かな緑地を背景にして、構成樹種はオーストラリアなどの外国原産の植物が多く、自然の景観というよりはアートの、または生け花的なしつらえは、22年間続くこの賞の審査作品では見られなかったタイプ。テラス、屋上庭園に取り入れられているカレックスやミュレンベルギアなど、港区にもともとある植物たちではないため、水やり剪定、植え替えなど、人的な管理をしっかり行わないと維持できない欠点があり、審査日は灌水システムの不調で植物の調子が悪く残念な景色でした。

ぜひ、更新し続けて新たな緑の景観を街に見せてください。



ブリリアタワー浜離宮

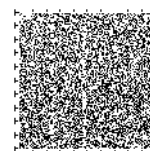
管 理 者：ブリリアタワー浜離宮管理組合
設 計 者：株式会社松田平田設計
施 工 者：株式会社長谷工コーポレーション
所 在 地：海岸一丁目6番1号
施 設 用 途：共同住宅、保育所
敷 地 面 積：2,820.88㎡
緑 化 面 積：569.02㎡
接道部緑化延長：185.02m
緑 化 面 積 率：20%
接 道 緑 化 率：75%



©加藤俊史 / 株式会社エスエス

選定に当たっての評価コメント

地上32階の建物だが、上層部分と下層部分とは、異なるデザインと色彩の指針が決められていて、周囲への圧迫感を低減させるための工夫が見られる。外構植栽と呼応する低層デザインでは、ファサードもいくつかのテクスチャーの異なる石張りを用いて、落ち着いた感じを出している。この敷地は首都高速道路1号線に接して、コンクリート製の列柱がむき出しになっている。この景観の上での「厄介者」をどう解決しているか。まず入口からラウンジへ。2階吹き抜けのラウンジは、むしろ首都高に向かって作られているが、その「厄介者」は見えない。すなわち、雪見障子(ゆきみしょうじ)のようにある高さ以上は見えないのだ。ラウンジ前には作り込まれたきちんとした小庭園が据えられている。周辺の地図を見ると、この敷地を隔てた首都高速道路の向こうには芝離宮がある。これは芝離宮庭園へのオマージュか。ラウンジから見える歩道を歩く人は、首都高ではなく、この小庭園の方を眺めてくれるはずだ。



田町タワー

所有者：株式会社田町ビル／徳栄商事株式会社／三菱重工業株式会社
設計者：株式会社三菱地所設計
施工者：清水建設株式会社
所在地：芝五丁目33番11号
施設用途：事務所、店舗
敷地面積：8,617.93㎡
緑化面積：3,544.40㎡
接道部緑化延長：93.18m
緑化面積率：41%
接道緑化率：74%

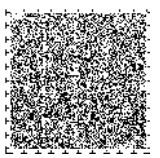


©中島興吾／株式会社エスエス



選定に当たっての評価コメント

JR田町駅直近のランドマーク的存在の田町タワーは、地下鉄三田駅と接続する便利さもあり、どんな建物に生まれ変わるのか、多くの人々の関心の的であった。国道から距離を空けて設けられた北側駅前広場には、行き交う人々がゆったり動ける間隔に落葉する高木ケヤキが植栽され、明るい大屋根に誘われて地下鉄につながる階段状広場には常緑のシマトネリコ。「江戸開城会見の碑」を配した東側広場状空地には、常に水が流れる滝とベンチと親しみある緑を組み合わせ、誰もが憩えるスペース。そしてこのあたりではサクラの名所の本芝公園との交点にはウミネコザクラがまとまって植えられ「桜つながり」を演出。加えて鉄道好きが集まるであろう線路が見える南側デッキは、趣を変えてエゴノキの並木。建物四周をそれぞれ物語が感じられる植栽で演出し、誰もが「ああいいなあ」と呟く空間が生まれた。現在工事中の隣接建物とともに田町駅に繋がる路地状アプローチの誕生が楽しみに待たれる。



リビオレジデンス西麻布

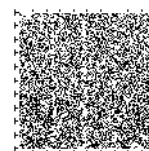
所有者：日鉄興和不動産株式会社
設計者：戸田建設株式会社一級建築士事務所
UDS株式会社
施工者：戸田建設株式会社東京支店
所在地：西麻布四丁目16番3号
施設用途：共同住宅
敷地面積：1,671.33㎡
緑化面積：518.53㎡
接道部緑化延長：81.15m
緑化面積率：31%
接道緑化率：65%



選定に当たったの評価コメント

この物件は六本木通りに面し、そこにつながる2つの道路を加えた計3辺が道路に接している。建物を六本木通りに平行に揃えて配置したことにより、その2道路が直角に交わっていない影響で、不定形な空地が生まれ、変化のある緑地帯が形成されている。館銘板(かんめいばん)、緑地内に点在するサインやベンチ、土留めなどに石材を使用することで、景観に統一感と重厚な趣が創出されている。メインエントランスは、大通りの反対側に配置された緑地帯に沿った水盤を介してアプローチするよう計画されていて、日常生活の中で木々の存在が感じられるように計画されている点に好感が持てる。また、近隣の公開空地と合わせた位置に広場を設けることで広がりのある緑地を形成している。

今後、六本木通り沿いに計画されている近隣の物件も、街並みの一体感を重視した配置やデザインを検討し、快適な歩行空間が連続的に確保される見通しがあるとのことである。さらなる魅力を備えた象徴的な「六本木通り」へと発展していくことに期待したい。



赤坂グリーンクロス

所有者：三井住友信託銀行株式会社
建築主：積水ハウス株式会社／日本生命保険相互会社
設計者：株式会社日建設計 地下構造：株式会社大林組と共同設計
施工者：大林・銭高・岩田地崎建設共同企業体
植栽工事：箱根植木株式会社／株式会社日比谷アメニス

所在地：赤坂二丁目4番6号

施設用途：事務所、店舗等

敷地面積：5,985.98㎡

緑化面積：2,363.32㎡

接道部緑化延長：204.53m

緑化面積率：39%

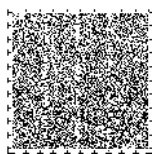
接道緑化率：82%



選定に当たっての評価コメント

東西の長い敷地の中心に地下3階、地上28階の高層建築を配置。その周囲の緑地を配置できる場所にぎりぎりまで緑化している。東側にある森のゲートを含め、ビル風対策で植栽しなければならない樹木の設置が求められなかったことが幸いし、規則的ではなく6m以上の大木の常緑高木を自然な構成で植栽したことにより、幅が狭い部分もありながら豊かな緑の連続を感じられる。

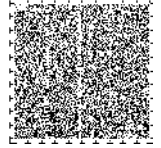
建物の南東面は三角形の極細の構造ブレースが設置されているが、その建物側にワイヤーメッシュを設置し、メンテナンスデッキ上にメッシュプランターを配し、ワイヤーに絡ませるテイカカズラ等のツル植物やプランターを覆うブルーパシフィック等の這うタイプの低木を組み合わせた壁面緑化を行っており、超高層建物のファサードのアクセントとなっている。高層部では強風の問題で壁面緑化が根付くことが難しいため、建物に少し入った部分で緑化するこの試みの成果を期待したい。



審査委員総評

「貢献」の総和

今回選定された作品の規模は、階高でいえば4階から32階の範囲。規模の大小はあっても、その存在がいかに周囲に必要とされているか、また周囲にその存在がどう貢献しているかを見ることになる。これが「みどりの街づくり」のための重要な条件の一つと思う。大規模な30階建て前後の建物であれば、膨大な人数を吸い込み、そして吐き出す都市の中の巨大なタワーだ。関係のマンションの住人や会社員、テナントに限定された「貢献」ではすまされない。その規模が巨大だけに周囲（住む人、通行人）にも影響が及ぶ。つまり多くの人々の仕事場と生活圏を提供していると同時に、こうした空間の作り手として、社会的責任についての配慮が問われる。果たして、この課題にどのように応えたか。たとえ、林立する高層ビルが都市空間になろうとも、各ビルから差し出される複相する「貢献」が、手を結び合うことで、人々が住まう場所、働く場所をより心安らぐ空間となっていくことを願う。



赤坂 信

千葉大学 名誉教授



山崎 誠子

日本大学短期大学部
建築・生活デザイン学科准教授
有限会社GAヤマザキ 取締役

緑地フィットネス=植栽管理

2025年の夏は暑さと物価上昇が止まりません。建築工事費は3か月先も補償できないような状態です。植栽工事も運賃、労務費は上昇していますが材料である高木・低木等の樹木や草花は建築工事にかかわるほかの材料にくらべ上昇していません。半年前はキャベツの値段が低木のサツキツツジより高いぐらいで、年数かけて成長し手間をかけた樹木の値段は驚くほどまだ安いです。緑地をふやし工事費の軽減を図ってください。しかし一方で、緑地は管理費がかかるから増やしたくないということは必ず言われます。業者さんに頼んだら高くつきますが、草取りや簡単な剪定、水やりなどは専門家ではない人でも十分対応可能です。提案です!緑地フィットネス。有料のフィットネス行かず、24時間ある緑地でフィットネスしましょう。水やり、草取り、剪定、すべて運動につながります。また植物は有酸素運動ならぬ、酸素生産装置です。緑地そばの空気は上等品ですよ。

緑空間が心地よい港区であることを願って

港区に暮らして35年以上、今も日毎にまちが生まれ変わってゆく様を見続けています。

大規模な再開発とともにまとまった都会の緑が生まれていますが、このまちに暮らし、また集う人々にとって、この緑空間が心地よい港区となっていると嬉しい…、というのが正直なところです。

22回目となる港区みどりの街づくり賞の候補案件は、矩形ではない敷地にまとまった緑地をつくる工夫や、建物そのものに緑を融合させた創造的作品、緑を建物とともにあるアートと捉えた演出など、こんな緑のある建物が港区に誕生して良かったな、と思える楽しいものでした。

地元港区に暮らす利点を活かし、入賞案件をあらためて訪れて朝や夜の姿をも眺め、枯れてしまった高木を伐採して広がった広場の心地よさや夜景の素敵さなど、新たな空間・景観を見出して、まちと共にある緑の将来の姿を想像しています。



藤野 珠枝

元港区景観アドバイザー
藤野アトリエ一級建築士
事務所 主宰
港区在住



若松 美津子

港区景観アドバイザー
株式会社ウリブカス

街をつなぐ緑の連鎖

事業規模によって緑化のスケールは異なるもののどれも、「みどりの街づくり賞」という性格上、特に道路に面した空地が、地域の魅力を高めるように計画されていました。街路樹と連動させながら、回遊できる散策路や憩いの場を設けたり、近隣の公園を意識して緑地を配置することで緑の広がりやつながりを効果的に生み出したものなど、「敷地内の緑化面積を確保するための緑」という枠組みを超えた、その先にあるものを探求する姿勢が感じられました。また、高層建築のボリュームに対しても、高木を緩衝材として活用し、周囲の景観との調和やスケール感を整え、内部からの見え方も風景となるように計画している点も印象的でした。竣工直後ではなく、2~3年経過後の状態を見学することで、管理状況を垣間見ることができ、緑地への丁寧なケアも感じられました。これからも、これまでの受賞作品も含めて、穏やかで美しい景観を提供し続けていくことを願っています。

